

平成 27 年度 女性と市長との懇談会（1 回目）

懇談テーマ：こんなまちであって欲しい～未来の中津川～

平成 27 年 12 月 16 日(水)10：00～12:00

健康福祉会館 3 階 第 1 研修室

出席者 女性 24 人 13 地区

市長・企画部長・定住推進部長

市長あいさつ

中津川市は合併して 11 年目を過ぎようとしています。私も市長となり、まもなく 4 年を迎えます。そして、本日のテーマである「中津川市がこんなまちであってほしい」に対し、この 4 年間私なりにやってきたことをご報告します。人口減少という大きな課題もある中で、この中津川市に住んでいただく、住み続けていただく、そして、住んでよかったとっていただけるようなまちづくりを進めたい、そんな思いで 4 年間で過ごしてきました。

まず、命を守る、安全安心に最大限力を注ぎました。中津川市民病院の出産制限の解除と、里帰り出産の受け入れをすることができました。また、「助かる命を助けたい」という思いで配備したドクターカー。病院前診療科という別の名前がついていますが、ドクターカーは出向いた先で手術も行え、救急車とは違います。診察料もかかり、当初は市民の皆さんも困惑された部分もありましたが、「命を守る」という大切な部分にしっかりと着手させていただきました。

そして、「人に優しいまちづくり」。これは児童福祉であり、老人福祉に対する施策を進めてきました。

3 点目に、「子育て支援」「未来につながるまちづくり」。人材の育成であり、子育て支援、この支援の中には未満児保育の充実ということで、阿木保育園での児童の受け入れ等についてさらに中身を充実してきました。

また、「将来を見据えたまちづくり」ではインフラの整備をしてきました。城山大橋を渡ると、青木の交差点にあたりますが、青木斧戸線の工事に本年 12 月から着手したところです。完成までには時間を要しますが、工事を始めることができました。

課題も含んでいますが、「リニアを見据えたまちづくり」。リニアに頼るということではなく、人口減少を迎える中で、中津川市の環境はもちろん、このリニアを活かしたまちづくりで中津川市へ人やもの呼び込む形に結び付けることができればいい。こういった事業にもしっかりと着手したところです。

そして、「安全安心のまちづくり」は、病院の充実だけでなく「減災のできるまちづくり」

もあります。昨年は隣の南木曾町で中学生が命を落とす大変残念な自然災害がありました。中津川市も 82 年前に四ツ目川の災害があり、市内が被害にあったという歴史があります。そんな中で、減災のできるまちということで取り組みました。

そして「移住定住」においては働く場があること。これは中津川市のテーマです。今年 4 月までは県下での有効求人倍率は岐阜市と 1 番、2 番という順位を競い合っていました。5 月から美濃加茂市、関市、各務原市の中濃の 3 市の有効求人倍率が企業進出によりぐっと伸びてきました。また、中津川市の求人倍率は高いにも関わらず、高校生等の若い方にお話を聞くと、中津川市は働く場所がないと言う方がたくさんいます。これはまさにギャップです。自分の希望する職種がないのが中津川市の現状です。若い方もいろいろな分野で働いたり、自分の力を試したいという方が非常に多くいます。今の中津川市にないような業種にも来ていただき、そうした方にも働く場を提供できるまちづくりを目指しています。こうした仕掛けにも着手してきたところです。

そして、現在皆さんがお住いの地域の自然環境、生活環境をさらに豊かで安心安全な環境づくりをしようと努めてきたところです。

中津川市は「農」「工」「商」のすべての面での産業分野で、県内でも平均以上の活躍をしていますが、現在「農林」について先行き不安といますか、農業や林業で生計を立てる方も多くはいません。そんな中、中津川市がこの 27 年度から開始した「総合計画」、「まち・ひと・しごと総合戦略」では、農業、林業をさらに大きな中津川市の魅力として取り組んでいるところです。

10 月に静岡、愛知、三重、岐阜の市長さんが中津川市に集まり、「東海市長会」を開催しました。その総会後に市内見学をし、馬籠、苗木城、熊谷守一つけち記念館に足を運んでもらいました。移動中に自然が溢れている中津川、清流のあるまちというところを見ていただきたかったからです。そして、この自然をさらに磨きあげるにはどうしたら良いかということで、市長さんたちに意見をいただきました。大変好評で、私としては大成功だったと思っています。こうした中津川市の自然をさらに魅力のある自然に作り上げていきたいという思いで現在取り組みをしていますし、これからずっと続けて取り組んでいきます。

そして、「中津川の文化、歴史が香る」という言葉をよく言われますが、実際に中津川のまち中を歩いてそういう風に思うことがあまりないです。今、全国で人が多く集まるまちというのは、駅に降り立ったり、駐車場で車を降りたところからすでにそういった香りがしています。そうした香りのできるようなまちづくりをしていかなければならない。街道文化をどこに行けば感じられるか。落合の石畳を訪れる人は多いが、落合の宿場町を訪れる人は非常に少ない。それはやはり落合宿に文化の香るところがないからです。中津川の宿場町といわれ、本町はこの 3 年で電柱の地中化等の整備をして随分形は変わってきましたが、本町の区間だけです。これを中津川の駅に降り立ったときに中津川市はこんな歴史を持っているまちなのかと感じられる、そんな歴史、文化の薫るまちにできたらいいなど

思います。これは各地域の特色がありますので、それぞれの地域でまちづくりをしたいということで取り組んできました。

そうした事業に取り組みながら、これからこんなまちであってほしいと、さらにグレードを上げる中で、皆さんのご意見をいただきたいと思います。どうかよろしく願います。

懇談内容（要約）

・〇〇さん

実は小学校の方に若い母親さんが困るような投書がありました。中津川市の経営者代表ということで、署名のない投書です。先頃、中津川市内の下請け工場の会合があり、そこでパートの若い母親の退職という議題が話に出されました。それは平日に学校行事が多すぎて、会社の業務が成り立たないので辞めてもらいましたという話なのです。先生たちは土日に行事をやるのが嫌なのかということや、なぜ平日の働いている時間帯に母親たちをわざわざ休ませるのですかということが書いてあり、これをもらった校長先生たちは困ってしまい、とりあえず役員会で見せてくれました。名乗ってくだされば説明もできるのですが、土曜日、日曜日に子どもたちに出席させると、代替休日という形で、平日に休むこととなります。結局お母さんたちは平日に休むことになって困るのではないのかということで、最初に年間行事を提示して学校は進めています。土日の方が都合がよいか学校がアンケートを取るといった意見も出ました。でも、経営者の方にこういう形で理解していただけない状況であれば、それこそ若者の雇用だけではなく、お母さんたち働かせませんがどうしましょうと思いますが、いかがでしょうか。

・〇〇さん

私には保育園の子どもがいて、つい先週、私以外の皆が風邪をひいてしまい、主人も仕事に行けない状態になってしまいました。ただ、私は幸いにも勤務先の理解を得ることができ、お休みをいただきました。近くに住む友人も働いていたのですが、やはり子どもが小さく、家の中で次々と広まってしまいました。その方は実家が遠くて預ける場所がなく、仕事のため託児を頼んでいたのですが、病気の子なので、行ってもまたすぐ呼び戻されてしまうのを繰り返し、最終的には仕事をあきらめねばなりませんでした。他の地方から中津川市に帰ってきて住んでみようと思う方もいると思うのですが、そういった場合に病児保育等のシステムがもう少し充実していれば、若いお母さんたちや、パートのお母さん方ももっと気楽に働いたり、育児も出来ると思います。まわりにも仕事はしたいけど、未満児保育に預けられず、働くことをあきらめている人もいますので、これからもう少し充実することを切に願っています。

・〇〇さん

私は南木曾町から転居してきたのですが、南木曾町では保育園とは別の安い金額で一時預かりを気楽にできるところがありました。そういう場所が少し不足しているという印象があるので、その点もよろしくお願いします。

市長

こういったパート職で働いているみなさんが辞めさせられるというケースが多発しているような場合は、経営者のみなさんからこれでは困るんだという内容で正式にいただくというのが本来のやり方だと思います。

会社経営のなかで本当にたまらないというほどの状況というのは、他の会議に出てもあまり聞いたことがありません。

教育委員会では、休日に出た場合には平日は振替になりますが、その場合には一日休んでみなさんに子どもさんの面倒をみていただけるでしょうかという議論もされています。

今日ここで、この内容について対応しますという言い方はできませんが、教育委員会の方へは報告がいつていると思いますので、教育委員会と確認させていただきます。

私どもが商工会、商工会議所など、経営者のみなさんが集まられた時に、こんな話がきましたよという話をさせていただくということをお約束するということがよろしいでしょうか。

また、病気のお子さんを預けられる場所については、中津川市民病院でこういう受け入れができないかという議論をしました。保育園・幼稚園では風邪をひいた場合には、登園しないでくださいという指導をしています。それでは、病院で受け入れができないかと検討をしていますが、医師や看護師の確保で大変苦勞をしています。これを稼働させるにはそこに待機する医師や看護師が必要で、今すぐにできるとお約束はできないという状況です。しかし、中津川市ではこうしたことが必要であるという認識はしています。取り組みを続けてまいりますので、よろしくお願いします

また、一時預かりの関係ですが、待機児童について12月議会でも質問ができました。現在、中津川市では待機児童はゼロです。これは空いている園があり、今すぐ入れますということです。空いている園以外でないといふことであると、希望に沿うことはできません。待機児童ゼロと言っても、本来ここに通わしたい、預けたいといふことはまだ万全ではありません。また、市内の保育園をこれからどうするという計画もあり、一時預かりだけを想定して万一に備えての保育士さんの増員といふのはなかなかできない状況です。阿木地域で未満児保育を解消したところですが、未満児保育等を充実させ、お預かりができる体制を優先的にしていきたいなと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

・〇〇さん

一時預かりといふのは例えば、美容室に行きたいとか、疲れたからちょっと眠りたいからちょっと見て欲しいといふそういう一時預かりのことです。一時間とか二時間とか半日

とか。南木曾町では、中津川保育園のところに「どーなっつ」や「ほっとけーき」のようところで、一時預かりをしてくれているようです。

中津川市内にも一時預かりをしているところもあるかもしれませんが、坂下地区に限ってはないようです。

市長

今国では「一億総活躍計画」というのが進められています。総活躍計画というのは、保育士や介護士の資格を持っていても家庭の事情などで職場にはつけない、しかしそれを親の介護などといった地域や家庭の中で資格を活かしている場合にはなんらかの報酬を出していけるような仕組みを作りたいというのが、現在の一億総活躍社会です。法的には完成されていないので、これでやりますという状況ではありませんが、また違った形で地域のなかで広めていけると期待をしています。また、一時保育の問題については、私立の保育園・幼稚園で一部やっていますが、坂下にはないようです。公立では高山保育園、私立ではさくら保育園、東さくら保育園、坂本さくら保育園、西保育園それだけです。これが広がるように検討材料とさせていただきますのでお願いします。

・〇〇さん

現制度だとファミリーサポートセンターで一時間でも預かってもらえたり、送迎をしてもらえたりというサービスがあると思います。そういったところの周知徹底をもう少しするというのと、その部分へ市としてしっかりサポートを徹底していただくと、一番手っ取り早いかなと思いましたので、ぜひよろしくをお願いします。

・〇〇さん

私は生まれも育ちも川上で大学や就職で一度関西の方に出て、結婚を機に戻ってきて子育てをしております。川上はもともとすごく小さな村だったのですが、どんどん人も減って若い方も少なくなっていますが、UIターン住宅等のおかげで若い方が地区外から来て、子供や若いお母さんたちも増えており、とても有り難いです。ですが、UIターン住宅は条例で入居期間が5年間となっているようで、入居者の方は「もう4年経ってしまった」とそわそわしています。私は探してあげるよと言うのですが、最終的にはご本人同士の話となりますし、すごくもどかしいです。川上で昔教員住宅だったところが今は更地になっていて、2年程前に定住推進課の方にその更地を売れないのですかと聞いたら、来年度の予算で分筆して区画整理して売る予定があると聞きました。ですが、その更地はずっと空いていて家が建てられそうなのに、そんな様子もありません。市の宅地等をUIターンの方や、子供が大きくなって家を新しく建てたいという方のために、サポートや提案していただけるとすごく良いのではないかと思います。

市長

ファミサポに触れることがなくて、申し訳ありませんでした。

今のUIターン住宅の条例は、年齢要件を35歳から40歳に引き上げました。また、5年という期間は特段の理由がある場合には6年ということで昨年から一年延ばしました。しかし、若い方にとって5年、6年というのは子育ての大変な時期で、その間に土地を確保することができないというのも一方の現実です。当初の5年間の理由として、UIターン住宅は一般の市営住宅とは違い、質が高いものを安く提供するものなので、特定の方に長く住んでいただきますと、次の方にバトンタッチができないためです。

土地の問題ですが、市の財産をとにかく早い時期にみなさんに活用してもらうために、マスタープランという名前で処分していこうと進めていますので、再度確認させていただきます。

そして、まち協の代表のみなさんや区長さんには、こんな土地があるよといった地域のみなさんの仲介といった応援をいただきたいということもお願いしています。それがうまくいっている地域とまったく機能していない地域にわかれており、定住率につながります。もうすでに5年以上経ち、1期、2期の方は住宅を出られて、6割の方が住宅を作っている。しかし、例えば川上ですと、川上の中に土地を見つけられたのではなくて、旧中津川市内とか落合あたりまで出られるということも現実です。本来は、UIターン住宅で住んでいただいた地域に土地を購入していただいて定住していただくというのが目的ですが、現実はそのような状況です。

定住推進部長

UIターンでお話があった川上の件ですが、例えば法的な規制、土砂災害の防止法があり、イエローゾーン、レッドゾーンといった規制が入ってくると、一回建物を壊してしまうと次に建て替えるためにはいろいろな手続きが出てまいります。安全対策ということが一番優先されます。今ここでお答えできず申し訳ございませんが、調べてお知らせします。

UIターン住宅では意向調査を個々の入居者全部にお話しさせてもらったと思います。今までは住んでもらうために、役所として具体的な手立てがなかったのですが、今後、若い人にどんどん住んでもらえるよう施策を進めてまいりますので、よろしくお願ひします。

・〇〇さん

学童クラブの指導員をしています。学童保育に対する要望が大きくなってきています。中津川市は17学童があり、中津川市学童保育連絡協議会を作っています。どんどん学童ができていますが、民設民営でやっており、なかなか学童自体の質が向上しません。

本年度の4月から制度が変わり、中津川市も設備運営に係る学童保育の条例が出来ました。それに従って私たちも運営しています。市としては子ども子育て支援事業計画という5年間の計画でやらせていただくということで始まりました。新しい制度の目玉は質の向上ということで、いろいろな基準が設けられました。初めてそういうものができて私たち

も喜んでいますが、質を向上するためには財政措置がないとできません。4月から始まり、色々な基準ができて大変です。職員の数などいろいろ厳しいのです。去年から今年にかけて、一切質の向上に対する財政措置がされていません。国からの補助金では、質を向上させるための補助金があるのですが、それを中津川市にとっていただくと、3分の1、3分の1、3分の1の負担になるわけですね。そうすると中津川市の負担もでき、たくさん学童があつて大きな負担になるので、なかなかとっていただけなかったんです。

ただ、今日いただいた資料（明日の中津川）の4ページにもあるように余裕教室を活用した施設整備を進めますということで、順番に学校に学童を入れていただいています。そのための学校の設備を整えたり改修したりすることにお金がかかると担当課からは言われています。そのことはとても大事なことで私たちも要望してきたことですが、それと新しい制度に基づいた質の向上とはまた別の話なので、お金がかかるところに財政支援がないので本当に学童保育は今年度困っております。特に小さい学童なんかはどうやっていったら良いか分からないという状況になっていますので、ぜひ学童保育の来年度の予算を確保していただき、新しい制度にのっつて、学童保育が運営していけるようにしていただきたいと思います。

本当にどの学童も困惑状態で、1年過ぎますが、来年度に対するメドもできてきていない状況で、まだ補正予算などもあると思いますので、まず予算を確保していただかないと、担当課の方も学童に補助金がとれないと思いますので、今日はそのことをお願いしたいと思いました。よろしくをお願いします。

企画部長

学童保育の基本的な考え方として、学校施設の余裕教室をあてていくことで、年に1カ所という方針でやっています。26年度、25年度と、1カ所の予定が2、3カ所ずつ増えているかなと思います。中津川市の財政が非常に厳しくて、十分な予算がつけられなくて申し訳ないところですが、年に1つの計画が2、3つ増えていますので、そのあたりをご理解いただき、来年度の予算に向けて担当部と考えていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

市長

先週から28年度の予算の折衝を始めているところです。私の立場から言えば、要望のあるものは全部やれということになりますが、財政担当部長としては厳しい状況だと。それは私もよく存じております。

女性のみなさんに社会で働いていただくための環境を作るためには、特に若い方がお子さんを預けられるように学童保育などが必要です。女性の方に共同参画として社会で活躍してもらいましょうと言っているのに、お子さんを預ける場所がありませんということでは、可能性のないことをやれと声を大にして言っているわけですから、今この部分をしっ

かりしなきゃだめです。

過去の計画では1年1カ所という形でしたが、去年は3カ所新しく立ち上げました。学校の施設を使うことについては、教育委員会の方で難色を示しましたが、一番安心なのは学校の施設を活用することです。先生方も子供さんが学校にいと、いくら学童保育の時間だとしても何かがあったときに自分たちの責任ということを考えてしまいますから、この時間帯からは学童保育のエリアですと間仕切りをし、平成27年から立ち上げて、現在、南小学校と東小学校の2カ所を進めました。財源の話になってきますので、このことは十分私も承知していますがご理解いただきますようよろしくお願いします。

・〇〇さん

ありがとうございました。学校を利用することを心から要望していましたがずっとやってもらえず、やっと最近やっていただきました。公設公営で学童をすともっとお金がかかると思います。それをお母さん、お父さん方が会計処理からなにからななまでやっいて、本当に指導員と親の力でやっいています。本当に大変な仕事です。市が公設公営でやったということも考えていただき、財政のことをよろしくお願いします。

・〇〇さん

ぜひ神坂にも学童を作っていただきたいという要望をします。地域の方にまかせてるとい話もありますが、やはり市からもいろいろフォローアップとか援助をしていただきたいと思っいますのでお願いします。

・〇〇さん

市内には児童センターがあると聞っますが、阿木の方は市内に来るのに大変時間がかかります。気楽に行ける場所がないため、阿木独自でお母さん方が集まって社協の支援を受けながら母親サークルをやっってお母さん方や子供たちの交流を深めている状況です。阿木も学童がないので作っていただきたいと思っいます。今年から未満児保育を開設していただき、非常に助かりますが、昨年度募集があっしたのは1・2歳児が4名だったのですが、10名以上の希望があり、5名を入れていただきました。先ほど、待機児童ゼロと言われたのですが、納得いかないです。復帰をしようかなという保育士さんの友達がいて、預けるところがなくていま阿木の未満児保育に申請中なんです、そこもまだ決まっておらず、不安だそうです。そういったところはゼロではないのではないのかと思っいます。子どもや子育て中のお母さんたちに優しい市であっしてほしいと思っいます。

私は市外から嫁にきて阿木に定住しています。実家に帰った時などに、友達からうちの市からこういったサポートがあるよと聞くと、非常にうらやましいという内容のサポートがあります。他の市の情報もいれていただいて、中津川市はこんなところが良いですよ、ということを入れていただくともっと人が集まるのかなとか思っいます。阿木にも住宅があ

り、なかなか入ってくれないというのも、土地問題などがなかなか区長会などで話が進まないなど、若いお母さんたちでも歯がゆい思いをしている方は多くいますので、そのことは考えていただきたいなど、代表として思います。よろしく申し上げます。

市長

実は中津川市は子育て関係のメニューは多くあり、項目が多すぎて、わからないだろうと話をしています。多くの新しい施策が出ますが、今までのものと同じようなものもあります。現行のものをさらに高めて新しい施策にしていけば内容が充実するし、わかりやすい。過去のものを残したまま、新しいものを取り入れると、二つ出来て項目が増えていく。

中津川市は8万人のまちの中では非常に高いところで予算を組んでいます。先ほどお話ししたマスタープランは、土地や建物だけでなく、仕組みも見直し、中津川はこういう政策を一生懸命やっているんだというものを出示してくれという話をしています。

阿木地域のみなさんには地域をあげて取り組みをしていただいております。未満児保育もこの27年からスタートすることが出来ました。一番の課題は保育士の確保です。病院の医師の確保も同様で一番わかりやすい例は小児科です。中学生まで無料になっているため、学校が終わってから多くの受診があり平日に先生がまったく休憩がとれない。こんなところで働いたら、身体がもたないというのが今の小児科医の先生の抱える問題で、中津川市だけの問題ではありません。どんな施策でもあるにこしたことはありませんが、検証の必要性があります。そういったことも大切だということも十分承知をしております。検証したなかで、しっかりと対応させていただきま。これからもさらに充実したいと思っております。

企画部長

中津川市はいろいろな子育てや移住定住に関する施策をやっていますが、PRが下手というか、他市と比べて劣っているのではないかということはよく言われます。子育てに関して一枚のペーパーでこういった事業があるというわかりやすい資料を発信していくことが必要だと思っています。

学童の話はそういったニーズがあると他からもそういったお話を聞いています。年に1カ所という方針ですが、見直しが必要だと思っています。

公設民営という形には変わりはありませんが、今年1カ所、来年1カ所というふうではなく、要望を踏まえながら前向きに検討していきたいと思。非常に財政的に厳しいとお話させていただいたのですが、公共施設に限らず、公共の土地もその土地に隣接している方を第一条件に、空いている土地は売却する方針でマスタープランの中にもあげています。もし、隣接の方が不要だと言われれば、その地域の中で必要な方といった順序をつけて売り払いをすすめています。財政的に苦しいのですが、なんとか財源を確保しながら、そうした施策を進めて行ければと思っておりますのでよろしく申し上げます。

市長

医療・教育・福祉は隣の恵那市とも連携できればと思っています。坂本周辺などのように恵那市に足を運んだほうが利便性が高いという場合もありますし、恵那市は財政の面も中津川市とよく似ています。ただ、残念なのは恵那市が今病院を作っていますので、これから看護師の奪い合いになるということです。今から4年前に恵那市と、市民病院も20年以上経ったので一緒にやりませんかという話をした経緯もあります。これからはひとつの自治体だけでなく、一緒にできるものは協力して質を高めていくような施設を作るということは恵那市と力を合わせてやっていかなければならない。そういった施策も必要になってきますので、みなさまでこういったものは必要ではないのかということがありましたら、提言をいただければと思います。

・〇〇さん

加子母は中津川市の一番端にありますが、高齢化している地域のなかで、「透析」が問題になってきています。付知までは病院の透析車が来ますが、加子母は下呂の方が近いので下呂へ行くことが多いです。東白川は透析車が加子母を通って下呂に行っており、加子母の人がその車を使いたいということで聞いたところ、地域が違うので使えないと言われました。そんな話もあり、これまでもいろいろと加子母と東白川でやってきましたし、話をしていただければと思います。皆働いているので、週2回透析の人をつれて通うのは負担です。もし、空きがあって乗せていただければありがたいなと思い、ここでお願いをしたいと思います

市長

加子母から市民病院へ直行のバスがでていることはご存じですか。12時になると加子母に帰るという時間で、これで用が足りるのかどうかを検証するように言ってあります。そのことをわかっていたいただきたいというのが前提なのですが、一部畜産関係の獣医さんについては、東白川の家畜農家は中津川市の獣医師が対応しています。獣医師を確保するとすると財政ではすごく負担になり、隣の白川町も中津川市で面倒をみていただきたいということです。東白川、白川は中津川市の獣医さんが対応しています。お互いに協力することが一番良いのではないかと思います。下呂病院と下呂市長さんのどちらと話をしたほうがいいのかというところですが、そのことをご検討いただきたいと早速連絡させていただきます。

・〇〇さん

私は「わくわくミーティング」という新しくできた苗木交流センターの図書室のボランティアグループの一員として今日参加しました。

今、中津川市は市民との協働を推進されていると思いますが、公民館には行き届いていないようです。わくわくミーティングは元気なお年寄りがボランティアでいろいろなことに関わりたいということで立ち上げました。ですが、書架や本の移動を予定した時に所長には連絡してあるのに担当の職員が聞いていないなど、公民館の反応がどうも薄いのです。私が以前住んでいた松戸市には30年くらい前に「すぐやる課」という課がありましたが、対して中津川市はかなり遅れているなと思います。どこの市役所もそうですが、対応が後手後手でフットワークが悪いと思います。介護など他にいろいろとやらなければならない方もボランティアに参加したいと来て下さっているにも関わらず、協力的でない。ボランティアとして一緒にやっていきましょうとこちらが手を差し伸べているのに、その手を握らないというやり方が、協働と言っているわりに話が違うじゃないかと思いました。しっかりと協働を進めていただきたいと思います。

市長

本当におっしゃる通りです。協働は行政目線ではなくて、みなさんが活動していただいていることに自分たちがしっかり汗をかいて参加できるということが、協働の一番の入り口になりますので。そういったことは残念です。本当に申し訳ありません。実は若い子にはバイタリティ、スペシャリティ、オリジナリティ、パーソナリティと、順番を踏んでくれと言っています。いきなりスペシャリティにはなれないので、バイタリティとして汗を流し、現場に行けと言っています。そこから自分が習得できてスペシャリティ、専門的なことに到達できる。専門性を極めるとオリジナリティ。最後はパーソナリティ、人間的にということになるのではないかと思います。この順序を踏まないと、いきなりパーソナリティの人間性豊かだけでは基本となる部分がないわけです。やはり、汗を流す。まずは失敗しても動くことが大切だと話をさせてもらいます。松戸の「すぐやる課」は、もう40年くらい前になりますね。「道路に猫が死んでいます」と言われれば「すぐ行きます」となんでもやる課で、今の時代への先駆的なことを松戸市がしていた記憶があります。中津川市も人が少なくなったので、どこの部署ということではなく、職員全員がそういったことを意識しなければならない時代だと、部長会等を通して話をしています。また、このことを職員の勉強会や会議等の中で、身をもって示さなければならない部分もあり、努めていきますのでよろしくをお願いします。

・〇〇さん

上の方が椅子に座っているだけというのは今の時代通用しないと思います。上の方が汗を流して、みんなと一緒にやっていくことで下の人にも伝わると思うので、そういうことを進めて行ってほしいです。

市長

市政懇談会を夏の時期に市内 15 カ所で開催していますが、市政懇談会は男性の方が圧倒的に多く、フリートークのようなかたちではなく、事前に決定した内容で話をさせていたでいています。そのため、今回女性の方を対象としてフリートークで懇談会をしています。今日言っていただいたことを、組織の改革として取り組みますのでよろしくをお願いします。

定住推進部長

直接担当部署となります。職員にはすぐ動くようにと書いていても、現実にはこういうことがありましたと聞いてショックを受けています。本当に申し訳ありませんでした。協働は市民協働課が現在まとめていますが、担当課の職員はしっかり理解しています。他の課の職員にも広めたいということで職員の研修会を用意しています。さらに地域事務所・総合事務所の職員に徹底していきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

逆のケースもあり、職員は動くけど所長が全然動いてくれない。そういった職員をみなさんのほうからもどんどん動かしてもらおうように直接言ってもらってもいいです。もし、言えなければ私のほうに直接電話いただければすぐに対応するように言います。

・〇〇さん

市役所退職後にまた市の施設の中に就職した方で、かつての上司が今の職域の上司になるということで、大変動きにくいということを多々聞いております。そうすると、私たち市民がいくら言っても、所長でも動けないという方も結構いると聞いています。上の位で辞めたからではなく、本当に市民のために動ける人の再就職の決定をしていただきたいと思えます。

市長

現在、60歳で定年を迎え、再任用で65歳まで延長していく取り組みをしています。今言われた状況がよくわかります。私の先輩が私の下に来て非常にやりにくいなということがありました。これは避けるのではなく、今の職員に任せてもらう必要があるという側面もあります。これから65歳までとなると市の職員の1割くらいは再任用で、経験のない職場にも配属しなければならない。中にはそこが適任だから再任用ではここで力を発揮してもらいたいという職員も何人かいて、再任用のなかでは一番いい形で働く場ができるということになります。ただ、今言っていただいたことは最大に配慮しながら、再任用の方の登用について詰めてまいりますので、お願いします。

・〇〇さん

馬籠は越県合併をしてだんだん静かになってきているなという印象があります。長野県木曾の馬籠という時代からすると、中津川市になってから少し衰退して、お客さんが減ってきたなと住民として感じます。市長さんも言われた通り、「中津川市の魅力は何だ」とい

うことだと思いますが、これというものが無いと私は実感しています。

この場に来ている方は市政に興味があり、市を良くしようという思いで、皆さん勉強されていると思いますが、中津川市の大多数が私のように何も感じずに市政まかせの人がほとんどだと思います。そういう何も感じずにいる市民が動いてこそ、魅力的な市になるかと思いました。こういう懇談会を開くことで、私のようにたまたま来た人が聞いて、中津川市ってこんなことをしているんだと初めて知ったことが多い。勉強できて考えたりする機会を与えてもらえるので。先ほどPRが下手だと言っていましたが、私たちのような人たちに誘いをかけていただくと市も変わってくるかなと思います。

・〇〇さん

私はにぎわいプラザの3階で、家庭教育支援の「すくすくわくわくまあるいところ」の代表をさせていただいています。私たちは家庭教育支援チームとして子育てでお母さんとお子さんが遊びに来られる空間を守っています。40人のメンバーが各地域で活躍しており、今日ここでも仲間が託児を担当しています。

子育てサポート講座を卒業した者が、私たちのチームに入っています。なんとかここから保育士を出してもらわないと、受け入れ人数が変わってくると子育て政策室に言われ、私達のチームから5名が各保育園に行っています。私も保育園で勤務していて主に未満児を担当しています。子どもさんが熱を出して保育園側からお母さんに電話するのですが、お母さんたちは仕事ですぐ飛んでこられないのです。でも保育士が足りないから、なかなかその子だけみているわけにはいかないのですね。先生たちとは違う立場なので、昼寝のときに私にできることはないかなと付き添うのですが、本当は私ではなくお母さんがとんとんと寝かせてくれたらどれだけ嬉しいだろうと思うのです。子育て支援で施設をよくすることなどにお金をかけるよりも、親さんとお子さんを一緒にいさせてあげる時間をなんとか作って欲しい。子どもが病気になったら「どうぞ。いってあげてください」と快く出してあげられる、理解ある企業が増えるといいなと思っています。熱がでたその日お母さんが来ても、また熱が出た子が次の日も来ているんですね。お母さん、休めなかったんだなと思って私は悲しくなってしまう。お母さんたちも働きたいという気持ちを汲んでいただける企業が中津川市の方でどんどん増えてくれればなと思っています。

私は社会教育委員もやっていて、いろいろな会議に出ています。その会議の度に若いお母さんたちの話を聞く機会があるので訴えるのですが、なかなか変わっていかないんです。すぐには変わらないこともわかるのですが、その会が終わればもう終わり。市長さんにお会いできるということで、今までとは違うのかなという思いで子どもたちのことをお話ししました。

市長

馬籠の関係ですが、私は合併したからお客さんが減ったとは思っていません。すでに20年前から観光バスでおしかける旅行形態が変わり、個人で旅行される方が多くなってきました。道路が整備されたことで旅行先の選択肢が広がったからです。そんな中で地元の方が外国人向けに歌舞伎を披露したり、中津高校の生徒さんが通訳ボランティアで秋にも活躍をしてくれました。それを活かして馬籠地域をさらに発展できればという思いはあります。また、峠を越えて歩く方がだんだん増えてきていて馬籠、妻籠をセットしてPRさせていただいていますし、これからも主要な観光地ということでは欠くことができません。それから、知事がフランスへ行ったときにフランスの方が馬籠ということ、飛行機ではキャビンアテンダントさんが岐阜県という言葉を知ったら馬籠ということを言われたと話されました。世界にも知られているということで、中津川市の大きな魅力のある地としての取り組みを変えるつもりもありませんし、整備も行ってきたつもりですので、またぜひ地元で盛り上げていただきたいなと思います。

そして、企業の協力を得ることについては、従業員を確保したり、新しい工場を作ったり、新しく従業員を拡張することに対してはさまざまな援助体系が備わっていますが、こうしたことを中津川市がするので今言っていたようなことにもぜひ目を向けていただきたいとお願いをしていくことが一番の近道だと思います。どこまでできるのかは企業の皆さんの裁量ということになりますが、今日いただいたご意見もしっかり伝え、企業の皆さんにもご協力をいただきたいと思っています。

こうした問題で国が進めているのは「三世代同居」です。その裏には家庭での在宅介護という問題もあります。若い方への負担となる場合もあり、社会に出て働くことが出来ないという矛盾が出来てくるなど、いろいろな問題があります。私は若い方に住宅手当を出すよりも、同居手当を出して企業の理解をいただくことが、同居への一番近道ではないかと議論をしたことがあります。こういうことは高齢社会、子育て世代にとっても、問題の解決にはなりません、ひとつの解決策ではないかなと思います。

・〇〇さん

いろいろな話が出たなかで、私はひとつだけどうしてもお願いしたいのは、環境保全についてです。苗木城や馬籠地域や本町といった特定の地域は、伝統的な街並みの保存などがされていますが、各地域にも本当に豊かな自然があるんです。残す気で残していかないと環境は残っていかないと。そのあたりは先進県である長野県をぜひ見習っていただいて、地域の街並み保全や景観保全を今のうちにしっかりと構想をもって作り上げていただきたいと思っています。

以前もまちづくりで「中津川市のいいところはどこですか？」ということをお勢の方が参加して書きだしたことがあります。でも、この景色は良いなどの話は出たのですが、それを残すためにどうしているかが見えないんです。リニアができ、まちが変わっていきななかで駅前だけでなく、各地域それぞれのどうしても残したいところの線引きは地域の方

たちと一緒に組んでいただきたいと思います。

・〇〇さん

乳幼児健診について、小さな子を連れて福岡に行くのはとても大変ですし、健診を蛭川でやっていただけるようにしたいなと思います。また、今は男女共同参画時代で、大手の会社ですと1年半の産休がとれて、子どもたちのことでお休みをいただけるんです。私も孫の面倒を見ている立場ですが、小さな子どもは病気のときには、常に一緒にいるおじいちゃんやおばあちゃんでも不安で泣き通しでした。だから、やはり未満児のうちの1年半か2年くらいまではしっかりとお母さんの手で育てられる環境作りが必要だと思います。今、男女共同参画で全国的に女性の活躍の場と言われていますが、女性や子どもの貧困という言葉が多くなってきました。そのあたりを考えると未満児教育はしっかりとお母さんの手でやれるように対応していくべきではないかなと思います。蛭川からの要望はぜひ乳幼児や学童の健診は蛭川地内でできるようにしていただきたいと思います。

学童保育の件も図書館で子どもたちは親が終わる17時頃まで待っています。学童保育を開設したいという要望が出ていますが、人数が少ないと費用もたくさんかかるし、親のほうで会議に出たりいろいろな維持管理をしなければならないということになると、何のための学童かという話になりますので、そのあたりをもう少しよく考えて学童保育の方向付けをしていただきたいと思います。

市長

自然環境のお話ですが、中津川市には1万6000ヘクタールの国有林があり、今は東濃ひのきという言い方をしていますが、戦国時代からずっと木曾ひのきとして、歴史的建造物の用材として排出されました。温帯性針葉樹林といいます。中津川市の1万6000ヘクタールの約8倍ですが、中津川市から上松にあるその面積を国が保護・復元する取り組みを始めました。針葉樹林は寒いところにありますが、温帯性気候の針葉樹林のエリアは世界的にも珍しいそうです。生態系の上でも希少価値のある地域で、中津川市の大きな魅力として全面にだしていきたいと思っています。そんな保護・復元について長野県の森林管理署を中心とし、多くの大学の先生、また自然を考える分野の代表者の方、そして新聞記者のなかで議論を進めています。10月に林野庁でどのような形でこれからの日本の自然を守っていくのかひとつの指針がこの地域の温帯性針葉樹林の取り組みが中心となって示されたところです。温帯性針葉樹林帯を中心に中津川市の自然に対する取り組みをしっかりと計画をしていきたい。そして、各地域での取り組みについては農業・林業が地域の歴史・文化をつくっているという点を全面に出しながら、風土千年、風景百年という中津川市の特性をしっかりと作り上げていきたいと思っています。また、さまざまな場面でご意見いただけることがあると思いますので、よろしくお願ひします。ちなみに現在、リニアと濃飛横断自動車道が同時に進行しており、地元のみなさんにとっては大変な環境の変化です。また

坂本の湿地帯やハナノキについても議論が多くされています。県が自然環境影響評価をおこなっており、結果は県から報告があったと思いますが、配慮しながら進めていきますので、どうかよろしくをお願いします。

乳幼児の健診について、現在の蛭川の診療所長が福岡で診療されていたという話を聞きました。それはなにかシステムのなかでたまたまなったということを知っています。すべての地域でというのはなかなか難しいので、現在のシステムでということを紹介させていただきます。

・〇〇さん

子育て最中のお母さんが働けないということと同じことですので、できるだけ行政の金銭的な面で子どもにしわ寄せがいかないような状態を作っていただけるとありがたいと思います。

市長あいさつ

少し話が外れるかもしれませんが、平成 17 年 1 市 7 町村が合併をしました。大前提として、このままでは疲労困ぱいで自治体が立ち行かなくなるために合併しました。合併してごみ袋が安くなっただけで、何もよくなっていないという方がいますが、そんなことはありません。平成 17 年で合併する前のところで皆さんの地域が止まっているんですね。合併せずはずっときたときにここでどうなっているかということを理解していただくことが一番現状をわかっていただくことです。財政が厳しいと言いますが、厳しいはずです。厳しいところが一緒になったからさらに厳しくなっている。マスタープランの話をしましたが、1650 の施設があり、維持管理だけで 30 億以上かかっています。お金がかかって大変だから整理するというのも 1 点です。しかしこれからの時代のシステムや施設として新しく作っていかねばならないものもたくさんあります。今までのものをそのまま引きずってはいは新しいものに手が付けられないので、ひとつの中津川市として、地域の伝統文化は十分尊重したうえで、生活に関わることについては今の時代に沿った改革をしていかなければならない。これがマスタープランです。総論賛成、各論反対とよく言われる部分ですので、それぞれの地域の皆さんの疑問については誠心誠意対応していかなければならない。合併して体力が弱ってきているなかでこれから持続的に中津川市に住んでよかったと言っただけのまちにするためには、当然みなさまに辛抱していただかなければならない部分も、この計画には大きなウェイトとしてあります。そのことはぜひわかっていたきたいと思います。

今、国はおよそ半径 5 km の一定の距離を中心市街地としてみなさんに集まっていたきたいとするコンパクトシティという考えを言っていますが、中津川市はそれができません。7つの自治体が合併し、多治見市とは違うわけですね。できないということは負担もかかり、それに耐えながらやっていく。そのためには今まであったものをもう少し整理をし

なければならず、それをしっかりしないとやりたいことができないというのが現状です。将来子どもに負担をかけないために、今我々がやっておかなければならない。まちづくりと同時に進めて行かなければならない分野ですので、これはみなさんのご理解がないとなかなかできないことです。先ほど言いました総論賛成、各論反対ということにならないように私どもは合併したひとつの中津川市の魅力のあるまちをつくっていきたいという思いです。今日いただいたご意見はまとめという方向でご案内ができると思います。またみなさんの地域にお邪魔したときに、今日の続きでもいいのでぜひお話やお声かけいただきたいと思います。本当に今日はありがとうございました。